

クラブコーディネーターコース

事例研究3：多世代交流と一貫指導コース

平成18年5月31日(水)18時30分～19時30分



NPO法人SSC光が丘：大熊 篤

スポーツリーダー養成講習会

事例研究「多世代交流と一貫指導」

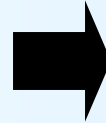
平成19年5月23日(水)19時30分～20時30分



NPO法人SSC光が丘:大熊 篤

本研究発表のストーリー

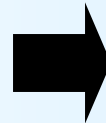
SSC参画の私的背景



2.フットサル・サッカーを通じた
多世代交流と一貫指導



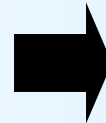
1.クラブづくりとクラブライフ



3.様々なスポーツを通じた
多世代交流と一貫指導



4.SSCにおける多世代交流を
図る意義・役割について



5.SSCにおける一貫指導を
図る意義・役割について

1. クラブづくりとクラブライフ

自立と連帯

◆クラブづくりとは、
地域 みんなで創り育てるプロセス。

ひとづくり。まちづくり。

学校や企業など枠組みにとらわれず、子どもから大人まで生涯にわたり地域の誰もが気軽にいつでも様々なスポーツを楽しむ環境づくり。

所属クラブや団体、会社の活動も続けながら、生涯スポーツクラブとして参加しやすい場づくり。

◆クラブライフとは、
そのプロセス(する、観る、支える、創る)を楽しむこと。
そして、みんなもいっしょに育ち、地域も発展へ。

2. フットサル・サッカーを通じた 多世代交流と一貫指導

=SSC光が丘では=



○活動コンセプト

年代・性別、目的・レベル等を超えて、フットサル・サッカーを楽しむと共に、地域交流・発展を図る。

○活動目的

幼児・低学年代の基礎技術・体力づくり、女子サッカー・フットサルの普及、パパ・ママ年代の生涯スポーツへの取り組みを支援する。さらに上手くなるために一貫指導体制のもと、ボールコントロールなど技術や個人・グループ戦術などの習得、チャレンジ精神の育成を目指す。

(幼児クラス)



ホテルカデツア

(中学・一般クラス)



(小学・女子クラス)



FC東京コーチ

多連携

1種目

多世代

一貫指導

日本ウェルネススポーツ専門学校

元プロ選手

アブテックスナッツ

ノヴァラスペーザ

日本マクドナルド



【参考】今後、近い将来の対応

“芝のグラウンドと夜間照明の実現に際して”

●高齢者クラス

高齢者にとり健康行動としての身体活動・運動の実践が、心身の健康にとって望ましい効果があると言われている。その為に、サッカーを楽しむ場を作り、寝たきり老人にならず、介護予防・介護保険にお世話にならず、活動的ライフスタイルを持つ高齢者を多く育てることができる。

●障害者クラス

車椅子、生活者に対する・・・電動車椅子サッカーは、アメリカ・カナダなどで「パワーサッカー」と呼ばれている。重度身体障害者のスポーツとして、1980年に誕生した団体競技で、バスケットボールコートを使用し、1チーム4人で行われます。電動車椅子のフットレストに車のタイヤの半分に切ったものを装着し、直径50cmのボールを蹴る。日本での本格的な活動は、1982年に大阪市身体障害者スポーツセンターに勤務していた山下氏（現協会顧問）によってパワーサッカーをヒントに考案されたのが始まり。重度身体障害者に数少なく残された機能「手・足・口・顎」などを使って電動車椅子の操作ができ、身体障害者手帳を持っている方なら、老若男女を問わず誰にでも団体競技の興奮に充ちた満足感を味わうことのできる。



3. 様々なスポーツを通じた 多世代交流と一貫指導

=SSC光が丘では=

○イベント事業活動⇒多世代交流の場

サマーフェスティバル、ラケットテニスフェスティバル、キンボール体験交流会、ソフトバレーフェスティバル、綱引き地域交流会、ウィンターフェスティバルetc

○定期事業活動⇒多世代交流・一貫指導の場

フットサル・サッカー、ソフトバレーボール、少女バレーボール、バドミントン、チアリーディング、チアダンス(ジュニア育成)、女子サッカー

○行政・地域・学校・民間との連携・協力⇒きっかけの場

ジュニアスポーツアクション事業委託、ねりま遊遊スクール事業委託、体協主催事業、光が丘フェスティバル、地区祭、学校周年行事etc

○指導・審判・運営スタッフ研修⇒スタッフのレベルアップの場



チアリーディング

日本チアリーディング協

ソフトバレーボール



多連携

多

多

一貫指導



日本体育大学

チアダンス

日本チアダンス協会

キンボール

サマーフェスティバル

綱引き交流会



ラケットテニス

日本綱引連盟

【参考】今後、近い将来の対応

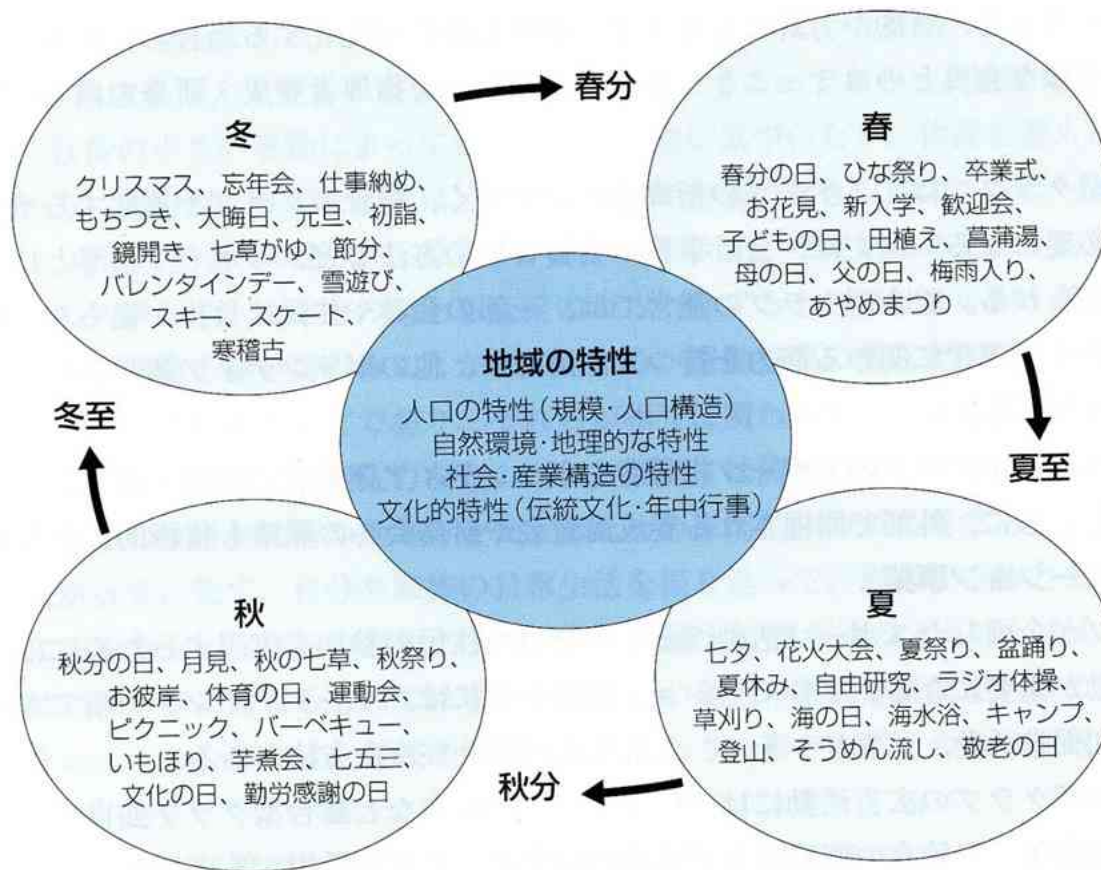


図4 交流の機会となる季節の行事例

平成17年度、ぎょうせい発行「総合型地域スポーツクラブ
マネジャー養成テキスト普及版」より抜粋

4. SSCにおける多世代交流を 図る意義・役割について

～なぜ、多世代交流が必要なのか～



スポーツは、単にスポーツにとどまらず、教育や文化面のみならず、健康や福祉、産業、環境保全、暮らしやまちづくりなど、他の領域とも密接に関係し、豊かな地域社会の形成に大きな力となる。

●世代間の交流喪失や地域コミュニティの弱体化の問題解決

都市化の進展やライフスタイルの変化などに伴い、地域の連帯感が希薄化しつつあり、スポーツを介して、子どもたちや地域住民の交流が広がれば、地域コミュニティの再生につながる。また、スポーツは、言葉の壁を越えて同じルールの下で行われる全世界共通の文化であり、クラブでスポーツ交流を図ることは、グローバルとローカルの架け橋として、ひとづくり・まちづくりに寄与する。

●子どもたちを取り巻く問題解決

テレビゲーム、マンガなど室内遊びの傾向や塾や習い事に通う子どもの増加により、スポーツをする子としない子の二極化が進んでおり、子どもたちの体力・運動能力の低下や他人とのコミュニケーション能力の低下による社会性の欠如が生じている。また、子どもを巡る昨今の状況は、いじめ、不登校、引きこもり、少年犯罪の増加や凶悪化など、様々な問題が発生し、深刻な社会問題となっている。今後は、家庭と学校と地域が一体となって子どもたちを育てていくといった視点が不可欠である。

●高齢化社会の問題解決

平均寿命の伸長と急速な高齢化を迎えるに際して、年金や介護保険、医療費の増大は、単に財政の問題だけでなく、国や自治体の存続を左右する重大な問題である。寝たきりではなく、元気で生き生きとしたお年寄りをいかに増やすかが、高齢化社会の問題解決の大きなカギとなる。



豊かな地域社会とは、地域のみなさんで考え、実現させていくものです。

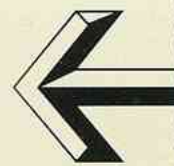
将来も住み続けたいと思える地域

子どもたちがいきいきと育つ地域

高齢者が生きがいをもてる地域



豊かな地域社会



行政・関係団体の
支援・連携

家族で休日を楽しめる地域

安心して暮らせる地域

住民同士が交流する地域

中高生の進学相談、フ
リーターの就職相談など

5. SSCにおける一貫指導を 図る意義・役割について

～なぜ、一貫指導が必要なのか～



スポーツする機会が、学校や企業などの枠組みを外れるとなくなる。

●学校運動部活動を取り巻く問題解決

学校では、少子化に伴う部員数の減少や専門種目を担当できる教員数の不足により、子どもたちが希望する種目を選択できず、より専門的な指導を受けることができないという状況下にある。また、顧問教師の転勤により、活発に行ってきた部活動が停滞し、休廃部に追い込まれるケースも増えている。さらに小学校段階で高い技術力を身につけた子どもの能力を中学校段階でさらに伸ばすための体制が整っていないなど、学校だけでは解決できない問題を抱えている。企業でも同様である。

●途切れるスポーツ環境～子どもの成長は途切れない～の問題解決

多くの競技種目において、各年代での指導をそれぞれの指導者が異なった指導方針で行っているのが現状であり、とりわけ、選手の育成に最も重要なジュニア期における指導が、学校単位で行われ、継続性に欠けている。より安定した競技力を確保するためには、学校の枠を越え、一貫した指導理念のもと、競技者を長い目で大きく育てるといった一貫指導システムが不可欠である。

○子どもの発達には個人差が大きいし、子どもは小さな大人ではない

○子どもも大人も年代や性別、体力・技能、興味・関心、目的に応じて生涯にわたってスポーツを楽しむよう、「遊び」志向か「競技・能力」志向か「健康」志向かに合わせて、年代や性別ごと指導していくため、今後は、体育協会やレクリエーション協会と連携・役割分担することにより、様々なスポーツの普及・育成・強化を行なう必要がある。

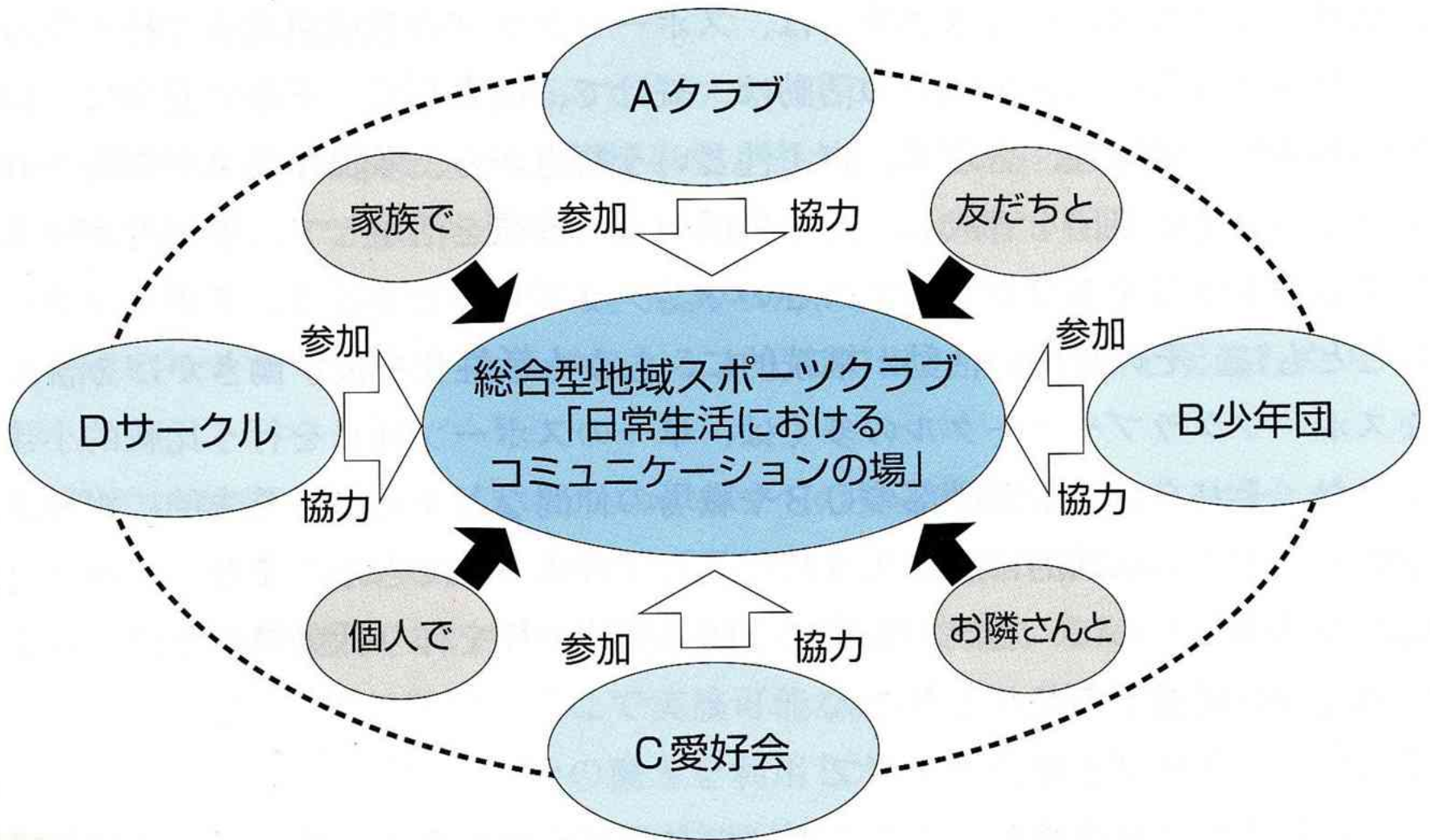


図2 既存団体のクラブと総合型クラブ

平成17年度、ぎょうせい発行「総合型地域スポーツクラブマネジャー養成テキスト普及版」より抜粋

【参考】ねりまSSCにおける多世代 交流と一貫指導の高度・多様化

例えば、

- ・単一種目の世代別分担（世代間での高度な指導）
- ・同一世代の種目別分担（種目間での多様な指導）

